

関節リウマチ②

【血液検査】

リウマチが疑われたり、あるいはリウマチの経過をみるために血液検査を行います。たくさん項目がありますが、それぞれどんな意味をもっているのでしょうか？今日は、病院で受ける検査の意味についてのお話です。

リウマトイド因子：関節リウマチ患者さんの 80~90%で陽性となります。患者さんでも陽性にならない人がいます。また、正常な人やその他の病気の場合にも陽性となり、リウマトイド反応が陽性だからすぐリウマチであるとはいえません。最近では、**IgG型リウマトイド因子**、**ガラクトース欠損型リウマトイド因子**といったものも測定し、出来るだけ早期にリウマチを見つけるようにしています。

炎症反応（CRP, 赤沈）：全身性の炎症が存在するときに上昇し、炎症の強さを示します。リウマチの場合も重傷度や活動性を測るのに役立ちます。お薬が効いているかいないかの判断にも使います。しかし、リウマチの時だけ上昇するわけではなく風邪をひいたりしたときなどにも上昇します。

抗核抗体：膠原病合併のスクリーニングとして行います。

貧血：リウマチでは炎症の影響で貧血になります。

肝機能検査、腎機能検査：リウマチの病状とは直接関係ありませんが、お薬の副作用で肝臓や腎臓に障害が出ていないかをチェックします。特に、抗リウマチ薬を服用されている患者さんでは必要です。

環状シトルリン化蛋白（抗 CCP）抗体：最近測定されるようになったリウマチの病態に関連した自己抗体のひとつです。感度（47~76%）特異度（90~96%）と優れていますが、現在は自費扱いであり、保険適応が期待されています。

マトリックスメタロプロテアーゼ 3（MMP-3）：炎症反応のひとつであり、関節リウマチの骨破壊と関係しているといわれています。「今骨がこわれているかどうか」を判定することが出来るといわれています。

その他にも、様々な検査を組み合わせるリウマチの状態を判断しています。特に、抗リウマチ薬などの強いお薬を服用されている患者さんは、医師の指示に従って必ず検査を受けて下さい。お薬が効いているのか？副作用はないのか？を調べるために極めて大切です。

（文責 奥田康介）

以後、関節リウマチ③に続きます。